

201312.13

「デイゴヒメコバチってなあに？」講座 報告書

正 智子

講師 坂巻 祥孝先生（鹿児島大学農学部生物生産学科害虫学研究室）

日時 2013年12月11日（水）

参加者 大人 34名

目的

瀬戸内町の文化遺産であり、観光資源である「デイゴ」に寄生する「デイゴヒメコバチ」が、近年大量発生し、デイゴが枯死する被害が確認されている。そこで、デイゴヒメコバチの専門家にこれまでの調査成果と、今後の保護対策、活用についてご教授いただき、デイゴヒメコバチやその対策について理解を深める。

講座内容

- ・奄美におけるデイゴヒメコバチの発生消長および新たな防除法の模索
- ・世界の発生と被害状況
- ・日本国内への発生と被害状況
- ・奄美における発生消長調査（まとめ）
- ・農薬を使用した防除法の紹介
（・空中散布 ・樹幹注入 ・株元土壌散布）
- ・農薬を使用しない防除法の模索
 - 1) 物理的な防除法を探索
 - 2) 古典的生物的防除
 - 3) 土着天敵の作用を促進
- ・世界の防除成功例（ハワイの防除成功例）



2013.12.13

「デイゴヒメコバチってなあに？」現地調査 報告書

正 智子

講師 坂巻 祥孝先生（鹿児島大学農学部生物生産学科害虫学研究室）

参加者 前田芳之 鼎丈太郎 秀平かおり 川上晃生 正智子

日時 2013年12月12日（木）

目的

瀬戸内町内の「デイゴヒメコバチ」による被害状況と対策について調査指導をしていただく。観光資源でもある「デイゴ」の今後の保護対策、活用について考える。

調査成果

・諸鈍集落

「デイゴ並木」には、樹齢300年～400年の木々が隣接し並木をなしている。2013年6月頃薬剤の株元散布した箇所のデイゴでは、葉の中で「デイゴヒメコバチ」の幼虫が育たないもしくは、成虫になったところで死滅し、被害が抑えられている現状を確認できた。葉の外に脱出した成虫は見られなかった。

葉を散布していない場所では、葉の中から脱出した「デイゴヒメコバチ」のオスを確認した。

・安脚場集落

旧陸軍砲台監守衛舎内のデイゴに、「デイゴヒメコバチ」による被害を確認した。約1か月前の確認時より、被害が急速に進んでいた。

・須子茂集落

旧須子茂小学校内校庭に樹齢300～400年ほどの「デイゴ」があり、「デイゴヒメコバチ」の被害が確認された。これほどの老樹への樹幹注入は、樹への負担を考慮すると、有効ではない対策である。

・阿多地集落

樹齢200年といわれる2本の「デイゴ」がある。2本とも「デイゴヒメコバチ」の被害が確認された。あまりに大きくなり過ぎた樹への空中散布は、樹上まで届かず、困難である。

・木慈集落

婿入した時に諸鈍集落から持参し、庭に植えた記念のデイゴ。「デイゴヒメコバチ」の被害がみられた。島の人にとっては、ただの観光資源ではない例の一つである。



『諸鈍「デイゴ並木」』

数年前、頭の位置より高かった枝が成長の重みで徐々に下がってきているという説明をしている現地調査員前田氏。



『諸鈍「デイゴ並木」』

発生消長調査で用いられる粘着シートを確認する坂巻先生。この地点では、「デイゴヒメコバチ」は確認されなかった。



『諸鈍「デイゴ並木」』

2013年10月頃に株元散布したデイゴの葉の中の様子を確認。左は、孵化する前に葉が効いて、それ以上育たなくなったものである。右が、成虫になり葉から脱出する前に葉が効き死滅した状態である。このまま、樹の組織が成長し、取り込まれていくだろうとのことであった。



『安脚場』

1か月前に確認した時より、被害が進んでいた。



諸鈍集落にて、調査中にみつけた『デイゴヒメコバチ』のオス

和名(分類):デイゴヒメコバチ (ヒメコバチ科)

学名(英名):*Quadrastichus erythrinae*

2004年 新種記録となる

2005年 国内では石垣島で初記録

2006年 奄美大島で確認



『旧須子茂小学校内』



『阿多地』



『阿多地』



↑成虫が、脱出した跡が見られた。

←台風襲来で枝が折れていた。



『木慈』

↑諸鈍から婿入りした時に、持ってきたデイゴの木

今回調査した『デイゴ』は、ほとんどがデイゴヒメコバチの被害を受けていた。

樹齢200年~400年といえる巨木のデイゴは、集落のシンボリック的存在である。祖先から代々受け継がれてきたもので、集落の人にとっては、ただの観光資源ではないということであった。